

みなさん、こんにちは！秋も深まって、日に日に寒くなりますね。冬の到来ももう少しです。名残惜しい秋に思いを馳せながら、今月もまた2冊選びました。

今回は高校生以上の方にぜひお勧めの1冊も入れています。大人のみなさんもこの機会にぜひ読んでみてください。

『落ち葉』

平山 和子 文と絵 平山 英三 構成と写真 福音館書店 1365円 科学読み物
〈お勧め年齢〉

幼稚園☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★★★ 中学★☆☆
高校☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

〈本の紹介〉

秋になると道に落ちている落ち葉、みなさんはひろったことがありますよね。そして、その落ち葉をきれいだなあと思ったことはありませんか？このきれいな落ち葉をそのまま残せないかな、とお家に持って帰ったこともあるのではないのでしょうか？この本を書いた人もそんな気持ちでこの本を作りました。この本にはたくさんのきれいな落ち葉の絵と写真がのっています。それらを見ているだけでも楽しいですし、その落ち葉をどこでどんな風にひろったか、その時どんなことを思ったか、文章で書いてありますので、そちらを読みながら絵をみると一段と落ち葉の美しさを感じることができます。

〈子どもに手渡すときのポイント〉

まず、絵と写真がきれいな本です。科学読み物といっても、エッセーに近い内容ですので、一人で静かに読んだり、読んでもらったりしても楽しめる本です。

少し文章量の多いページもありますが、中学年以上なら読み聞かせに使っても大丈夫な文章の量と内容だと思います。ただ、子どもがすぐ手にとるような派手なインパクトはないので、ぜひ大人の方が子どもに手渡してあげてください。



『詩を読む若き人々のために』

C.D.ルース 深瀬 基寛 訳 ちくま文庫 絶版 詩

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学★★☆

高校★★★ 一般★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

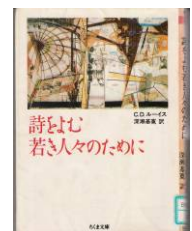
<本の紹介>

詩をひとつも知らないという人はもちろんいないと思います。例えば国語の時間には必ず習いますよね？でも詩が好きな人はどれくらいいるのでしょうか？さらに詩が何のためにこの世に存在しているのか？考えたことのある人はあまりいないのではないのでしょうか？この本の作者は「詩はなんの役に立つのだろう」という章でこう書いています。『詩なんてバカくさいというひとびとはたいていは、この人生におびえているのです。自分じしんの感情におびえ、この世界の不思議さにおびえているのです。』詩とはこの世界を別な光で照らし出し、私たちに今見えている世界とは違う世界の内側をしっかりと照らしてしてくれるもの、だからこそ、その真の姿、真の感情と向き合うためには勇気さえ必要とすると彼は言っています。詩を読むのに勇気がいるのだなんて考えたことがありますか？この本はかなり古くに書かれた本ですし、読みやすいとは言えません。けれども読み終えたとき、私たちに詩とは何かを明確に教えてくれ、詩を読むとはどういうことか、その勇気も与えてくれる本です。

<子どもに手渡すときのポイント>

このコーナーで紹介する本はできるだけまだ出版されているものをと心がけてきましたが、この本はどうしても紹介したくて書いてしまいました。本屋さんでは手に入らないと思うのでぜひ図書館に足を運んでみてください。

この本は私が読んだ中で（そんなに読んだわけではありませんが）一番詩というものをわかりやすく、おもしろく紹介してあると思います。最近子どもたちの自殺が多く報道されていますが、一篇の詩が人生を変えたり、救ったりすることもありますよね？私たちももう一度、詩や物語の力を信じてみる第一歩としてもぜひご一読ください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか